

日本建国のものがたり



稲穂をニギノミコトに授けられる天照大御神

つくのと同じように永遠につづきます」という意味の、いわゆる「天壤無窮の神勅」を述べられました。ニギノミコトは、その言葉にしたがって神々の国、高天原から日向の国、高千穂の峯にお降りになりました。

その時、天照大御神は御鏡（正直を表す）、御剣（決断力を表す）、勾玉（慈愛を表す）の三つのみしるし三種の神器をニギノミコトにおさづけになりました。

天皇の御位は、百二十五代という世界でもっとも古く、長く続いている御位です。神話として語られるくらい昔から続いているのです。

神話によれば、太陽の神である天照大御神は、自分の孫であるニギノミコトに対して、「豊かに稲が実るこの日本の国は、わが子孫が治める国であり、天皇の御位は天地が長くつ



天孫降臨。高天原から地上に降られるニギノミコト。

天照大御神・天壤無窮の神勅

豊葦原の千五百秋の瑞穂の国はこれ吾が子孫の王たるべき地なり。宜しく爾皇孫就きて治らせ。行くませ。宝祚の隆えまさむこと当に天壤と窮り無かるべし。

（声に出して読んでみましょう）

神武天皇



神武天皇の御即位

このようにして、私たち日本人はむかしからお米を作るようになったのです。

美しい自然と清らかな水に恵まれて、人々は協力して作物を作り、平和な国をつくりました。

古くから、日本のことを「瑞穂の国」と呼んできたように、天照大御神の願われた「豊かに稲の実る国」が実現することとなったのです。

そして神武天皇さまが願われたように徳（みづくしび）をもつて世界の国々が家族のように仲よく、美しい世の中にしたという御精神は歴代天皇を通して今も生きているのです。

（参照：紙芝居「国生み物語 日本教育研究所」）



神々に感謝のおまつりをされる神武天皇

人にもそれぞれ誕生日があるようにどの国にも誕生した日があります。世界の各国では建国や独立した日を大切な祝日として定め、その国に生まれたことを喜び、また建国以来これまで国の発展に尽くして来た人々の努力を偲んで、国民こそつてお祝いする盛大な祝賀行事を行っています。

わが国では、近代国家の仲間入りをした明治時代に、初代神武天皇が御即位された年の元旦を太陽暦に換算して二月十一日が紀元節として定められました。先の大戦後に一時廃止のやむなきに到りましたが、占領の終了と共に国民のなかに建国記念の日をお祝いする日を定めようという気運が澎湃として起こり、昭和四十一年に、建国をしのび、国を愛する心を養うことを目的に、再び二月十一日が名称を「建国記念の日」として制定されました。

私共は、日本国民として日本国の誕生日である「建国記念の日」をお祝いし、長い歴史のなかで受け継がれてきた建国の理想と精神を仰ぎ、先人のたゆまぬ努力に感謝し、皇室の弥栄とわが国の一層の発展を心から祈念して建国記念の日奉祝大会を開催します。